

千曲市森のあんず等加工品開発と販売を通じた「あんずの里」振興事業

取組に至る背景・事業の目的

地元の宝であるあんずをもっと広めたい、そして後世へとつないでいくにはと思案し、ご近所で子育てが一段落した女性の仲間達で工房アプリコを立ち上げ、加工所を開設していこうというスタイルに辿りついた。この事業を通してシニア世代が頑張ることであんず生産への意欲向上、地域住民とのコミュニケーションの輪を広げ、あんずの保護・振興につなげていく。

事業内容

- 「菓子製造業」の許可を取得し、JA ながの森店の遊休施設を賃借し、改修工事を行い加工所を整備した。加工所内に「減圧平衡加熱乾燥機」を導入し、地元産のあんずのみを使用してドライあんずをはじめ、ドライフルーツ、地元野菜の規格外品を乾燥して乾燥野菜にする等、料理具材の開発を行った。
- 県の「しあわせ信州食品開発センター」の指導のもと、「缶詰又は瓶詰食品の製造業」の許可を取得した。センターの施設を使用し、近代的加工機器を使用することにより、あんずジャムやシロップ漬けを試作加工・販売し、今後の活動の基礎作りを行った。



【あんず製品の加工風景】

事業効果

- 「減圧平衡加熱乾燥機」を購入し、あんず以外の野菜・果物を乾燥加工し、あんず農家の新たなビジネスモデルの構築を図った。
- 地元の生産者があんず・果物・野菜を搬入する際にコミュニケーションの輪が広がり、この活動に対する協力体制が生まれてきた。
- 「あんずの里振興会」に入会し、積極的に関わることであんずの保護・振興の活動に想像以上の影響を与え、千曲市森地区の「あんずの苗木 1,000 本植えようプロジェクト」スタートの原動力となった。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

乾燥機をフル稼働し、より良い製品の加工・販売を目指す。また、地域の活性化につながるあんずの木の保護・育成に少しでも役立つよう、摘果作業等の労働を通し、「あんずの里」に貢献し、次世代に引き継げるよう、シニア世代の頑張りを見せていく。

各種商談会へ参加し、販路拡大を図り、市内の食品加工業者の OEM の受託をすすめ、共に地域活性化の一端を担う努力を続ける。

【選定のポイント】

多くの機関の指導のもと開発したドライあんずなどのあんず加工品が、千曲市のふるさと納税の返礼品に採用されるなど高い評価を得ている。原料供給には、地元農家の協力体制が進み、生産者同士のコミュニケーションはもとより地域の人たちで助け合う協力体制が生まれてきた。

また、シニア女性の頑張りにより、地元地区の男性陣も感化され、あんず振興の新たなプロジェクト「あんずの苗木 1,000 本植えようプロジェクト」に積極的に関わる等、あんずの保護・振興を地域で一体となって取り組む気運が醸成された。

団体名	工房アプリコ（千曲市）	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	026-214-5058	事業費	11,092,339円
		支援金額	5,760,000円